

社会資本整備総合交付金 事後評価シート
長浦地区

平成27年11月

千葉県袖ヶ浦市

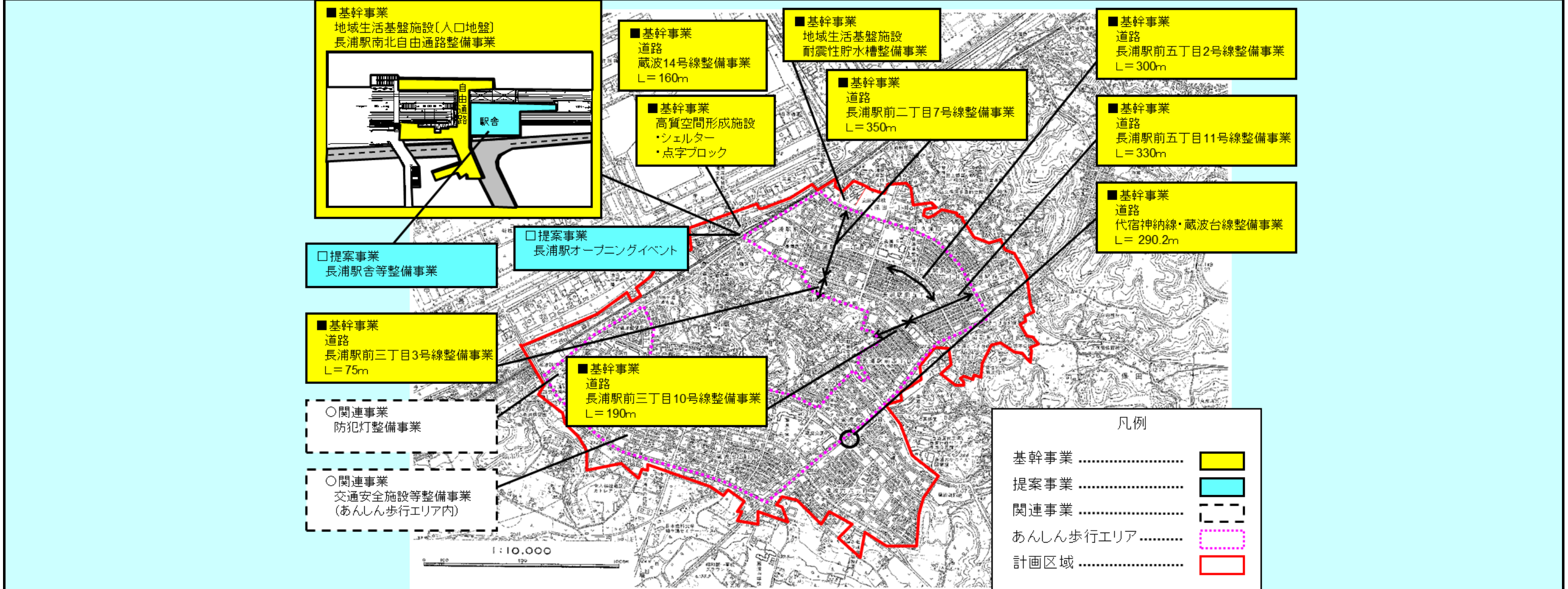
様式1-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	袖ヶ浦市		地区名	長浦地区		面積	286ha			
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	2,815百万円 国費率 0.303						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 ・道路(市道代宿神納線・市道蔵波台線、市道長浦駅前二丁目7号線、市道長浦駅前三丁目3号線、市道長浦駅前三丁目10号線、市道長浦駅前5丁目2号線、市道長浦駅前5丁目11号線、市道蔵波14号線) ・地域生活基盤施設(耐震性貯水槽、長浦駅自由通路) ・高質空間形成施設(長浦駅北口広場)										
		提案事業	・地域創造支援事業(駅舎施設、長浦駅オープニングイベント)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	地域創造支援事業(防犯・交通安全マップ)					関連事業に位置付け、交付金の対象としない		影響なし			
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値	目標	1年以内の	効果発現要因		
	指標1	長浦駅利用者数(車椅子・ベビーカー等利用)	人/週	123(人)	21(年度)	185(人)	26(年度)	280(人)	○	あり	今回の整備により、自由通路及び駅舎にバリアフリー施設が整備され、車椅子やベビーカー利用者などの交通弱者の利用が従前より倍以上に増えたため、当初の目標を達成したといえる。		
	指標2	交通事故発生件数	件数/年	17(件)	20(年)	13(件)	26(年)	5(件)	○	あり	通学路の歩行帯整備、交差点改良による右折レーン設置により、安全対策が図られ、事故件数が減少し目標が達成された。		
	指標3	住民満足度(アンケート)	点	56(点)	20(年度)	60(点)	26(年度)	56(点)	△	あり	道路や耐震性貯水槽等の整備により、市民の安心・安全の確保が図れ、事業効果が、発揮されている。耐震性貯水槽については、半径120m以内の火災の消火に利用できる水利が新たに確保できた。市民意識調査の防災・防犯・交通安全の満足度としては、目標は達成できなかったが、同調査の「日常生活・生活意識」において、治安の良さや消防体制の安心感について、過半数が肯定的回答をしている。		
									なし	「日常生活・生活意識」について、「はい」を回答した割合 ・お住まいの地域の治安が良いと思いますか ...57.1% ・消防・救急体制に安心感をもっていますか ...66.4%			
3) 実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた							
	住民参加プロセス	なし				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた								
											都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できなかった		

様式1-2 地区の概要

長浦地区(千葉県袖ヶ浦市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標:生活環境の安全性、利便性の向上を図り、暮らしやすい都市の実現を目指す。 目標1:交通結節点の整備改善により、地域の利便性の向上を図る。 目標2:通学路整備、交差点改良により、安心して歩行・走行できる環境を構築する。 目標3:防災機能の充実、防犯対策の強化により、安全な生活環境の構築を目指す。	長浦駅利用者数(車椅子・ベビーカー等利用)	単位:人/週	123	H21年度	185	H26年度	280	H26年度
	交通事故発生件数	単位:件数/年	17	H20年	13	H26年	5	H26年
	住民満足度(アンケート)	単位:点	56	H20年度	60	H26年度	56	H26年度



まちの課題の変化

- ・長浦駅舎、南北自由通路の整備により、エレベーター・エスカレーターが設置され、バリアフリー化が図られた。
- ・南北自由通路の整備により、十分な幅員の通路が確保され、混雑時や雨天時でも安全でスムーズな通行が可能となった。
- ・南北自由通路の整備により、歩行者動線と自転車動線が分離され、安全な歩行空間が確保された。
- ・あんしん歩行エリア内の道路整備により、歩行者の安全確保が図られ、事故件数が減少した。
- ・幹線道路交差点に右折車線が整備され、事故が発生している危険個所の改善が図られた。
- ・小学校通学路に側溝蓋掛けし、カラー舗装による歩行帯を設け、防犯灯を必要箇所に設置したことにより、生活環境の整備が図られた。
- ・耐震性貯水槽を整備し、震災時の火災防御活動と被害軽減を図り、市民の安心・安全の確保が図れた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・カラー舗装の維持管理について、経年によるカラー舗装の剥がれ等を修繕していく。
- ・移動円滑化(バリアフリー)について、指針等の改定があった場合に対応できるようにする。
- ・幹線道路交差点未整備箇所について、地域住民の同意、警察協議を行い、交差点改良工事を進めて行く。